



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

秋田赤十字乳児院

平成21年12月1日

〒010-0041
秋田市広面字釣瓶町100-3
TEL 018-884-1760
FAX 018-884-1762
相談電話 018-884-1761
URL <http://www.akita.jrc.or.jp/nyujiin/>

広報誌 第16号

よちよちちゃん



赤十字乳児院職員短期交流研修事業

日本赤十字社事業として、平成21年度から3ヶ年の運営強化計画に基づいた職員短期交流研修事業です。

日本赤十字社の乳児院は全国に8か所あります。地域環境や規模の違いから、それぞれの特色をもって運営しています。赤十字乳児院のスケールメリットを最大限に生かした交流研修は、訪問先の特色を確かめ合いながら課題解決の方策を見つけるため、スタートしました。

当院との交流施設は日赤医療センター附属乳児院と日赤岩手乳児院です。

日赤岩手乳児院

保育士
千葉佐紀子さん



「ぎゅっ」がある風景
秋田乳児院では、ふと気がつくと・・・どの職員も「ぎゅう〜っ」と言いながら子どもを抱きしめていました。一日に何度もその風景を目にしました。子ども達は「ぎゅっ」の瞬間、大切にされている幸福感と安心感に包まれて、とても良いお顔をしていました。岩手に帰って来て、私もたくさん「ぎゅっ」をしています。秋田で学んだ事を今後に活かしていきます。



幼児安全法講習に参加



日赤医療センター附属乳児院

保育士
鶴沢富貴子さん



秋田では職場の状況を職員各自が理解しようとする姿に驚き、その中で子ども一人ひとりの顔が見える養育に職員の努力を感じ、大変感動しました。

『養護施設からの里帰り訪問』・『地域のふれあい祭り』・『避難訓練』・『院内研修・勉強会』にも参加し意義ある研修でした。

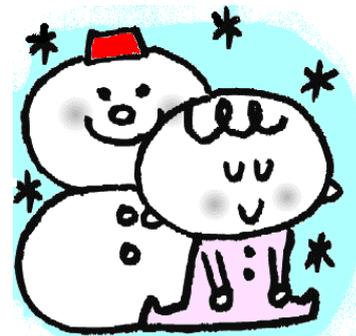
温かく迎えて下さった秋田の皆様、ありがとうございました。

秋田赤十字乳児院から

体調崩すことなく2週間という長い期間を元気に終わられ、本当にお疲れさまでした。また、その間秋田を楽しんで、リフレッシュを忘れず万全なる体制で臨んでいる姿にプロ意識を感じました。

少しは緊張しながらも環境の違いに戸惑いはなく、「今何をすればいいのか」という判断のもとそれぞれのスタンスで、すーっと養育に・業務に入っている姿は、「すべては子どもたちのために」を基本姿勢に日々養育実践しておられることを感じました。これこそが、すべての強化計画の核となる意識と思われまます。受け入れ側も二人を介してたくさんの気づきがありました。お二人に感謝です。

(事務長 石山)





日赤岩手乳児院で研修しました

とても新鮮な、実習生に戻ったような感覚でした。しかし今回は、自分自身だけでなく、今まで当院で築いてきた養育に対する姿勢などが、私を通して見られるような気がして……肩がずっしりと重く感じられました。そんな不安な気持ちも、職員の皆さんの温かい言葉や、思いやりに触れ、ありのままの私で研修に望ませていただくことができました。

研修中に入所した子どもが、温か～い言葉と思いやりで包まれていることを実感しました。
(保育士 田口聡美)



日赤岩手乳児院のみなさんと一緒ににっこり。
前列左が田口保育士。

施設は違っても、同じ日赤の職員として、基本理念に基づき、自分たちの職場と同じようにしっかり働いていました。他の施設を体験するのは、自分たちのいい所・悪い所に気づき、改善に取り組む機会になる、いい研修だと思います。なによりも、職員が刺激を受けたと感じます。

日赤岩手乳児院
土井看護師長 談

日赤医療センター付属乳児院で研修中です

合同カンファレンスや養育家庭・児童相談所等との交流会に出席させていただいています。沢山学び秋田に持ち帰りたいと思っています。秋田の湿気が欲しいけれども頑張ります。
(看護師長 保坂)



***** 保育室から



ことり

サンタさん、早く来ないかなあ

クレヨンで色付けしたツリー型の画用紙に、カラフルなシールで飾りつけクリスマスツリーを作りました。

面会に来ていたおかあさんに手伝ってもらいながら素敵なツリーが完成しました。ことり組は、すっかりクリスマスモードです。



ぼんび

自己主張 ～保育日誌から～

<10月28日>

着替えを手伝おうとすると激しく泣いて拒むMちゃん。洋服を手渡すと泣き止んで自分で取り組み始めました。“自分で”のサインだったのかな。

<11月7日>

自分でズボンを履いて[OK!]と笑顔でピースサインをするRちゃん。

<11月18日>

鼻を拭こうとすると「自分で!」、手洗いに手を貸すと「自分で!」、靴下が左右違っていても自分で履いて満足。

ひよこ

テーブルを囲んだ子ども達のおめ目は、絵本に釘付けです。「ワンワン」「ブーブー」とことばが飛び交い、お話に合わせて体をユラユラ、おててをパチパチ。ご飯前の読み聞かせのひとこまです。



みんな絵本に夢中です。

10月6日、新生児の男児が入所しました。「きちんと挨拶のできる子に育てます。」

担当 斉藤看護師・田澤保育士



子どもの病気からみえるもの



予防接種は、感染すると生命に危険が生じたり後遺症が残ったりと、深刻な症状になる病気を、ワクチン接種で予防するために行われます。正しい知識や情報をきちんと把握することが大切です。

チケン、
すぐ終わるからね

電話相談の中から紹介しましょう。



Q「三種混合の一回目を受けてから間隔が空いてしまいました。ポリオが近々あるのですがどうしたらいいのでしょうか？」

A「ポリオの集団接種がすぐあるようですので、先に受け、4週間あけてから、三種混合を。三種混合は、一回目と二回目あるいは、二回目と3回目のどちらかを近づけて受けたほうが効果的です。」

ポリオの接種日がすぐの場合……三混① **ポリオ** ~4週間~ 三混② ~3週間~ 三混③
ポリオまで日にちがある場合……三混① 三混② ~3週間~ 三混③ ~1週間~ **ポリオ**



海外たすけあい義援金募集
2009・12・1(火)~25(金)



ネイゲーマイも街頭募金に参加
(秋田市「ぼぼろード」で)

NHK海外たすけあいは今年で27回目を迎え、難民援助の緊急支援や発展途上国への開発協力事業に役立てることを目的としています。

編集後記 秋田の冬の味覚ハタハタ。煮て、焼いて、鍋にと、子どもの頃は、「また、ハタハタか。」と言うくらい食卓に上ったものです。乱獲から休漁を経て、今では、高級魚である。ハタハタ寿司をつけてもらおうと母に電話をすると快諾。正月の帰省が楽しみです。いつかは、自分でつけられるようになりたいものです。
(進藤)

★ピッカピッカです★

秋田県ビルメンテナンス協会 奉仕事業

会員の方から「子どもたちのために、がんばって磨いた。喜んでもらえればうれしい。」と言葉をもらいました。
参加者19名で、院内全室の床のワックスがけや、窓ガラスの清掃のほか、トイレまできれいにさせていただきました。感染症対策のひとつになってとても感謝しています。



* 栄養守って30年 知事表彰受賞！

おめでとうございます



平成21年度秋田県社会福祉大会において、管理栄養士佐藤米子さん(写真左)と調理師佐藤礼子さん(写真右)が表彰されました。